



# 教職の役割を問い直す

## —非正規教員への眼差しの歴史から

～身分や待遇が不安定な非正規教員の任用制度・政策の歴史に焦点を当てる～

### 研究シーズ概要

今日の学校教育の状況は混沌としています。「GIGAスクール構想」の展開や「社会に開かれた教育課程」の実現など教育内容の充実が目指されており、教師に期待される役割は過度に拡大しています。その一方で、「ブラック」と揶揄されるほど教員の労働環境は悪化の一途を辿っています。また、少子化等を見据え調整弁的な側面から身分・待遇が不安定な非正規教員の任用も拡大している傾向にあります。

「教育は人なり」と言われますが、教職が置かれている状況はそれとは逆行しているように映ります。子どもたちの学習権を支える人的条件としての教職が、なぜ劣位に置かれているのでしょうか。翻って、教職の役割とは一体何でしょうか。身分や待遇が不安定である非正規教員の任用制度・政策の歴史に、焦点を当てることで解明します。

### 利点・特長・成果

これまでの教育学における教員研究は、暗黙のうちに「正規教員」をその対象に置いてきました。教師が安心して教育を展開していくためには、何より教師自身の身分や待遇の安定は欠かせない要素であり、教員法制もそれを前提としていたことが背景にあります。要は、誰もが教師は正規であることを「当たり前」と認識していたのです。

しかし、これまでの歴史を紐解けば、実は非正規教員は任用されてきており、その役割期待も大きかったと言えます。欠員補充の論理はもとより、多様な専門人材をリクルートするためのポストとしても目されていたようです。このような論理が受け入れられるに伴い、本来「例外」であるはずの非正規教員の任用が正当化されていきます。この正当化のプロセスが、教職の役割を変質させたと考えられます。

### その他の研究シーズ

- 「代理教員」に関する国際比較研究
- 学校経営コンサルティング型組織開発

### キーワード 非正規教員、教員不足、子どもの学習権、専門性、専門職性

#### 本技術に関し、対応可能な連携形態(サービス)

知財活用	否	技術相談	否	共同研究	可
施設機器の利用	否	研究者の派遣	可	技術シーズ 水平展開	否

#### 開発段階

5	第5段階	製品・サービス化(試売/量販)段階	2	第2段階	試作(ラボ実験レベル)段階
4	第4段階	ユーザー試用段階	1	第1段階	基礎研究・構想・設計段階
3	第3段階	試作(実証レベル)段階			

#### SDGsの目標

